

ごあいさつ

滋賀大学経済学部の母体となった彦根高等商業学校(彦根高商。1923年～1944年)では、研究や教育に活用するため、同時代の新聞を収集していました。それらのなかには『大阪朝日新聞』や『大阪毎日新聞』などがあり、現在、滋賀大学経済経営研究所で保管されています。

『大阪朝日新聞』と『大阪毎日新聞』には滋賀についての情報をあつめた紙面があり、1928年～1937年の原紙については、滋賀県にある公立図書館での所蔵はなく、本研究所のみ保管されています。

そこで今回、滋賀県内ではあまりみることができない、新聞原紙に掲載された彦根高商をめぐる記事を3期にわけて展示します。

おおよそ80～90年前の滋賀の人々が読んだ新聞原紙をとおして、彦根高商の様子をみてみましょう。

2017年8月

企画展

【しんぶんし】

原紙にみる彦根高商報道

第Ⅲ期展示

(1934年1月～1937年12月発行分)



企画展【しんぶんし】
原紙にみる彦根高商報道

しんぶん紙 —第Ⅲ期の概要—

第Ⅲ期は1934年～1937年の新聞原紙を展示しています。展示している新聞原紙には日焼けや傷み、調査に活用された跡が残っています。そのような新聞原紙のもつ歴史を彦根高商の報道とあわせてご覧ください。

※彦根高商卒業アルバムの写真はすべて滋賀大学経済経営研究所デジタルアーカイブです。

発行 二〇一八年二月一日

The Institute for Economic and Business Research
http://www.biwako.s-higa-u.ac.jp/eml/index.htm



〒522-1852
滋賀県彦根市馬場一丁目一
電話: 0749(27)1047
FAX: 0749(27)1397

監修・編集 発行
滋賀大学経済経営研究所
今井綾乃 (滋賀大学大学院経済学
研究科博士後期課程)

会期
◎第Ⅰ期 2017年8月1日(火)から10月27日(金)まで
◎第Ⅱ期 2017年11月6日(月)から2018年1月26日(金)まで
◎第Ⅲ期 2018年2月1日(木)から3月30日(金)まで



【しんぶんから知る②】

本コーナーでは彦根高商に関する3つの新聞記事をご紹介します。1つ目は、本学彦根キャンパスに現存する陵水会館についての記事です。陵水会館は彦根高商の同窓会館として卒業生などの寄附で建てられました。設計者は建築家ウィリアム・メレル・ヴォーリズです。彼は日本で多くの西洋建築を手掛けながら、キリスト教伝道とその主義に基づく事業を展開しました。また、メンソレータムを広く日本に普及させた実業家でもありました。

2つ目は、文部省が生徒の風紀を取締るため、カフェへの出入禁止

を彦根高商などの教育機関に言い渡したという記事です。しかし、彦根高商の卒業アルバムにはカフェへ出入りしている生徒の姿が収められています。

3つ目の記事からは、戦時色を帯びた彦根高商の様子を捉えることができます。彦根高商は戦争に関する展示会を開催したり、慰問金を集めたりしました。また、彦根高商の校長を務めていた矢野は彦根市内の戦死者の遺族を慰問しました。

記念事業に 陵水会館を計画 彦根高商で

彦根高商では昭和十三年をもつて創立満十五周年を迎えるので記念事業として校友が「われらの母校」のため工費三万円校内に陵水会館を建設し、陵水会本部事務所並びにクラブ、宿泊所、研究室、図書館、大ホールに充てる計画で財源は二千四百の会員の寄附に依つことになり更にこの際同校の開校沿革史の編纂を計画し来る五日午後一時から同校会議室で平塚彦根町長および渡邊町会議長その他二、三の関係者を招待し座談会を催し、学校の誘致と当時の争奪運動の物語りを記録し大いに彦根高商の創立歴史を宣揚する意気込みである

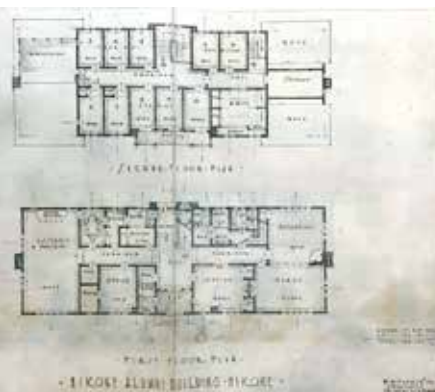
『大阪朝日新聞「滋賀版」13面 1936年12月2日



▲彦根高商卒業アルバム『11- 皇紀式千六百年 SOUVENIR』



▲「陵水会館設計図」(陵水会蔵)



(表)

(裏)

【しんぶんから知る①】

1937年5月、彦根高商の講堂でヘレン・ケラーが講演を行いました。記事によると、1,200名の人々がヘレン・ケラーの話を聞くために彦根高商の講堂に集まりました。彼女は聴衆に「闇に苦しむ人々へ永遠の門戸を開放し光りと救ひの手を差し伸べて戴きたい」と訴えました。

ヘレン・ケラーは生後18か月のときに高熱が原因で視力と聴力

を失いました。彼女はアン・マンスフィールド・サリバンのもとで手話と点字を学び、その後、世界各地で障害をもつ人々の福祉や教育の発展に尽くしました。

働く人のために よき蔭を与えよ

奇蹟の聖女手植の松に祈る！
彦根を訪れたケラー女史

「ヘレン・ケラー女史だ！」「七日午後零時十二分下り列車の彦根駅着で湖国への第一歩を印した三重苦の聖女をへ迎えて感激の興奮が沸いた、駅頭には矢野高商校長、山本彦根盲学校長、市長代理大寄市教育課長ら多数の出迎を受けて岩橋武夫氏並びにトムソン嬢に伴われた女史は日米国旗の交叉する高商自動車でまづ港湾の彦根盲学校を訪問、小憩のうち滋賀県盲人福祉協会から日米通商の始祖で湖国が生んだ英傑井伊大老の石膏像を贈ったが、一尺五寸の石膏に彫まれた衣冠束帯の大老像に女史は指頭で撫し感興一人であった、引き続き校庭で記念の松を植え、感極まった口調でこの松が枝を伸ばし葉を繁らし盲人のために働く人のよき蔭を与え常盤の緑を湛え永遠のよろこびたらんことを祈る

高商の講演会 聴衆千二百名

ヘレン・ケラー女史をむかえて講演会は七日午後一時四十分から彦根高商講堂で開かれ、三重苦をかなぐり捨てた聖女の湖国第一声に全会場は感激図録そのものであった

定刻一千二百の聴衆は会場にあふれ身動きも出

来ず場外にもマイクを据えつけるという盛況裡



『大阪毎日新聞「滋賀版」13面 1937年5月8日

に矢野彦根高商校長の紹介で銀髪ケラー女史はトムソン嬢ならびに岩橋武夫氏とともに壇上に立ち岩橋氏の通訳で湖国へのメッセージに涙ぐましい女史六十年の忍苦と実行を語り聴衆の魂に呼びかけ

最後に女史特有の冴えた声で堂々

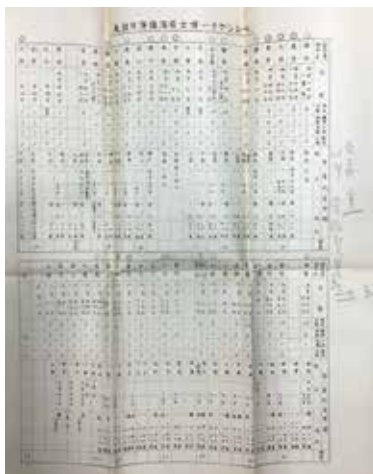
端なくもこの度アメリカと通商の鼻祖井伊大老を生んだ湖国を訪ねこれほど悦ばしいことはない、どうか井伊大老がアメリカに門戸を開放したように闇に苦しむ人々へ永遠の門戸を開放し光りと救いの手を差し伸べて戴きたいと

感激的な言葉を残して約一時間にわたる講演をなし、壇上で贈られた花束に

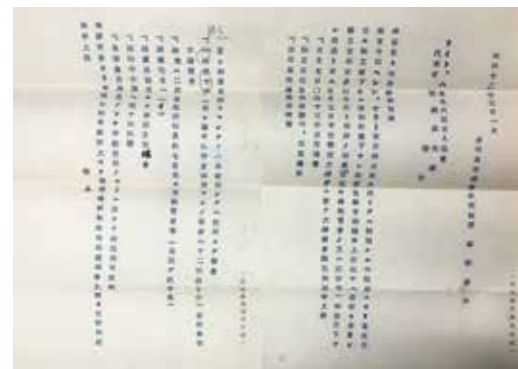
「私の生命よ」

と大悦びで午後三時七分彦根発列車で大津へ向った

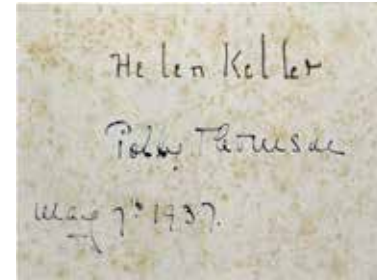
『大阪朝日新聞「滋賀版」5面 1937年5月8日



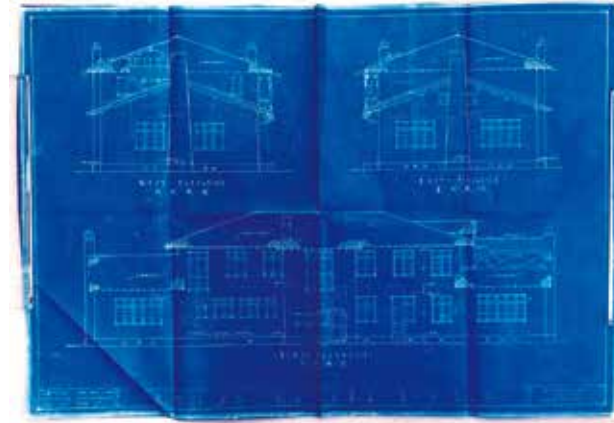
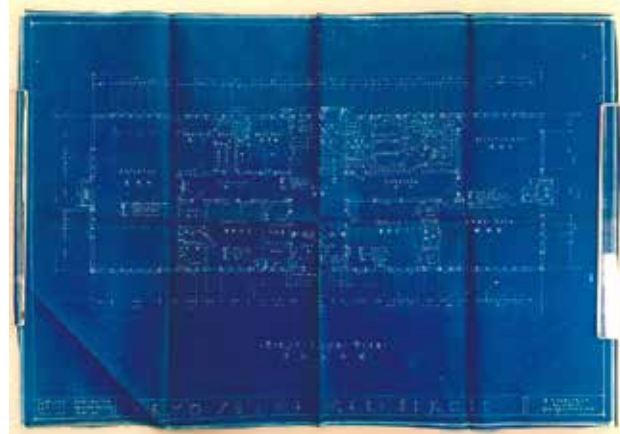
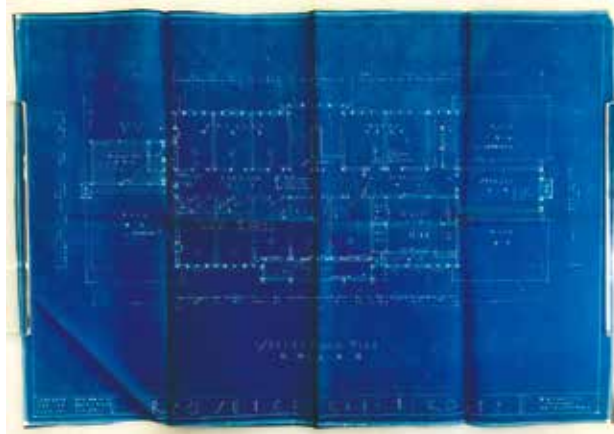
▲「ヘレン・ケラー博士日満講演日程表」(滋賀大学経済学部蔵)



▲ヘレン・ケラー講演会に関する書類(滋賀大学経済学部蔵)



▲『芳名録』ヘレン・ケラー直筆のサイン(滋賀大学経済学部蔵)



ヴォーリス建築事務所から彦根高商に届いた陵水会館の設計図 (陵水会蔵)



『大阪毎日新聞』「滋賀版」
13面 1934年10月10日



▲彦根高商卒業アルバム『09-SOUVENIR 2597』

◀彦根高商卒業アルバム『11- 皇紀二千六百年 SOUVENIR』

文部省では学生の風紀取締りの徹底を期するため全国直轄学校学生の遊郭およびカフェー出入りを厳禁し、今回彦根高商校へもそのお布令が発せられるとともに彦根署はじめ各警察署は今後学生を遊興させた遊郭貸座敷業者はもちろんカフェーその他を容赦なく厳罰に処することになった

矢野校長談

彦根には女給のないカフェーのないのは遺憾だ、金沢には女給がない相当なカフェーがあつて学校が応援しているためすばらしく繁昌している彦根にも女給をおかぬカフェーがあれば学校が応援してもよいと思つている

カフェーはご法度 学生の出入を厳禁 彦根高商でも実施



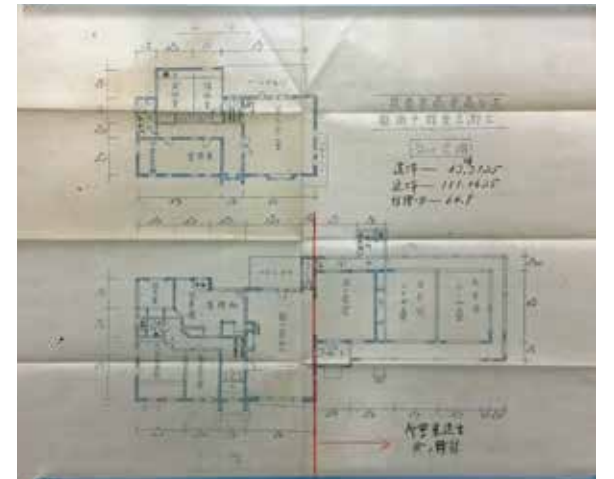
▲山口高商 鳳陽会館の写真 (陵水会蔵)



▲『同窓会館建設基金 関係書類』 (陵水会蔵)



▲同窓会館の建設費に関する書簡 (大分高商から彦根高商へ) (陵水会蔵)



▲彦根高商が収集した大分高商 上野ヶ丘会館の図面 (陵水会蔵)



▲彦根高商が収集した他校の同窓会館や建築物の資料 (陵水会蔵)

補足①

彦根高商は陵水会館を建設するにあたり、参考として他校の同窓会館をはじめとする様々な建築物の写真や設計図などを収集していたと考えられます。





矢野校長

金亀城下に固し 銃後の二人男



堀部副議長

一市二郡・県境まで

テクする弔問記録

紋服の堀部市会副議長

彦根城下に咲いた銃後の感激美談二つ一

その一

堀部彦根市会副議長は彦根駅における轎車、傷病兵の慰問、遺骨の送迎等々鳥の啼かぬ日はあつても堀部副議長の紋服姿の見えぬ日はないとそれほど有名になつてゐるがさらに最近彦根市を中心に犬上、阪田両郡の戦死者と聞けば

例の紋服で

しかも往復八、九里にもおよぶ江濃国境、犬上郡大滝、芹谷の山奥をも遠しとせず、テクテクと歩いて遺族を慰問し、佛前に額いて護国の花と散つた勇士の冥福を祈つてゐるという銃後の美談は評判となつて各方面に感動を与へてゐる当の堀部副議長は「銃後のわれわれとして当然の義務です、感心でもなんでもありません」どこともなげにいい放つてゐる



◀日章旗 (陵水会蔵)

日夜の雨風 夫人同伴で 矢野校長の赤誠

その二

矢野彦根高商校長もまた夫人同道風の日、雨の夜の厭いなく彦根駅に出張つて轎車に、傷病兵の慰問にさして遺骨送迎等のほか彦根市内戦死者の遺族を訪ねて慰問するなど銃後の赤誠をささげて校内はもとより一般市民感激の的となつてゐる

矢野校長のこうした赤誠はついに
全校生徒を 感動せしめて各生徒はまったく自発的に小遣金を節約して皇軍慰問金としてあるいは弔慰金として贈りさらに内部にあつては文部省で出している「国体の本義」をそれぞれ購入してわが国体観念の認識につとめ、さらに毎月二十日を粗食デーと定めてこの日は漬物だけで食事をいただき皇軍の労苦をしのび、晩餐後一分間黙禱して皇軍将士の武運長久と

戦死勇士の 冥福を祈り一方外部的には時局講演会あるいは事変関係の展覧会などを開催して非常時日本を一般に呼びかけると同時に国体観念の認識強調につとめてゐるなど全く校長感化の現れの一つだといわれている

『大阪毎日新聞』「滋賀版」 1937年12月22日

新彦根市に対する 希望、抱負を聴く 移く動く座く談く会

歴史博物館や 観光施設が欲しい

矢野彦根高商校長



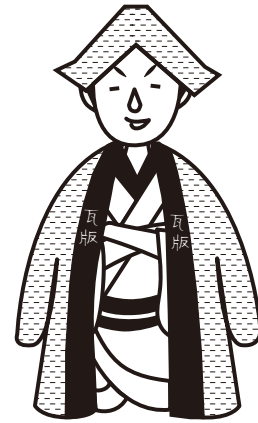
待望の彦根市がいよいよ生れ出したことは誠に喜びにたえない、市民と共に大いに祝しこの際二、三希望を述べらるならばまづ彦根城を中心として多賀、醒ヶ井、竹生島、多景島等をつなぐ観光施設を行えば相当多くの人を引附けるであろう。経費の問題があるから急速には出来ないであろうが開国の偉人井伊大老を出したところであるから歴史博物館のようなものが出来れば彦根の名所となることになるであろう。また大老の旧跡保存なども今から考えて置く必要があるはせぬかと思う、彦根を中心とする環境は日本精神発揚の貴重な資料に充ちてゐることを思うとこの宝を世に現すことは大いに意義がある

と思う、一方教育の点から考察すると教育都市としての施設、すなわち各種の学校が集まつてゐることは彦根が他に誇るにたる都市であるといえる、また彦根に今少し対外的の自慢の出来る名物がほしい、新市会議員には明朗なる市政をもつする立派なものを選んでわが彦根市を名実兼備の都市としたいものだ

『大阪毎日新聞』「滋賀版」13面 1937年2月9日

補足②

1934年～1937年の『大阪朝日新聞』と『大阪毎日新聞』の滋賀版が大きく報じた出来事の一つに彦根市の誕生があります。彦根市政は複数の町と村が合併し、1937年2月に始まりました。



▲『大阪毎日新聞』「滋賀版」13面 1937年3月2日



▲『大阪朝日新聞』「滋賀版」5面 1937年2月11日

琵琶湖新聞 1873年3月創刊 ●●1875年7月休刊、同年12月廃刊

滋賀新聞 (木版)1872年10月創刊 ●●1881年2月休刊のち廃刊

淡海新報 1878年4月創刊 ●●1881年廃刊

淡海日報 1881年2月創刊 ●●同年5月『江越日報』と改称

江越日報 1881年5月創刊 ●●1882年12月廃刊

近江共同新聞 1884年6月創刊 ●●1888年5月廃刊

ささ浪新聞 1888年4月創刊 ●●?年廃刊

京都滋賀新報 1882年8月のち『中外電報』と改称、さらに『日出新聞』と改称

湖南日報

淡海民報

江州商業新報

滋賀日出新聞① 1904～05年頃創刊 ●●?年廃刊

滋賀日報① 1904～05年頃創刊 ●●?年廃刊

長等新報 1904～05年頃創刊 ●●?年廃刊

近江新報 1889年2月創刊 ●●1939年8月廃刊

江州日日新聞 1921年11月創刊 ●●1940年8月新聞統合で『近江

日刊大津新聞 ?年創刊 ●●1940年8月新聞統合で『近江

滋賀日日通信 ?年創刊 ●●1940年8月新聞統合で『近江

滋賀日出新聞② ?年創刊 ●●1940年8月新聞統合で『近江

近江日日新聞 ?年創刊 ●●1939年8月廃刊 ●●1940年8

近江同盟新聞 ?年創刊 ●●1942年8月第2次新聞統合

滋賀新聞 ●1942年8月『近江日日新聞』

京都新聞(滋賀版) 1942年『京都日日新聞』と『

大阪朝日新聞(滋賀版) 1925年4月1日「京都滋賀版」 1927年10月「滋賀版」独立 1940年9月より『朝日

大阪毎日新聞(滋賀版) 1894年4月20日「京都滋賀付録」— 1930年10月「滋賀版」 1940年6月大津支局設

中部日本新聞(滋賀版) 1942年9月大津支局設立

大阪時事新報 1940年6月大津支局設立 19

近江毎夕新聞 1929年?月創刊 ●●

【しんぶん史 —新聞展開図—】

ここでは、いままで滋賀で流通した新聞の歴史を紹介します。しばしば、滋賀は地方新聞が根付かないところといわれています。いくつもの地方新聞が創刊、廃刊、統合されていった様子を「滋賀の新聞展開図」から捉えることができます。

『大阪朝日新聞』には1925年4月から「京都滋賀版」という紙面が、『大阪毎日新聞』には1894年4月から「京都滋賀附録」という紙

面がみられるようになりました。それらは滋賀の出来事にも焦点をあわせ報道する紙面であり、現在、わたしたちのみる「滋賀版」に続いていると考えられます。



1923年彦根高等商業学校開校

1944年4月彦根経済専門

学校と改称 1949年5月滋賀大学創立

参考文献

『滋賀県史』昭和編第1巻概説編(1986年8月1日) 滋賀県発行

『滋賀県史』昭和編第6巻教育文化編(1985年5月30日) 滋賀県発行

『新修大津市史』第5巻近代(1982年7月18日) 大津市役所発行

『新修彦根市史』第4巻通史編現代(2015年1月31日) 彦根市発行

『彦根市史』下冊(1964年3月30日) 彦根市役所発行

『毎日新聞百年史』(1972年2月21日) 毎日新聞社発行

『朝日新聞社史』資料編(1995年1月25日) 朝日新聞社

「朝日新聞(大阪)マイクロフィルム」大阪朝日新聞京都

発行

付録、京都滋賀版、滋賀版

『読売新聞百年史』資料・年表(1976年11月2日) 読売新聞社発行

『中日新聞創業百年史』(1987年8月28日) 中日新聞社発行